

道徳教育実践報告：中学校の道徳教育—多様性と情報モラル

佐々木 隆

プロローグ

2021年7月10日(土)に続き、2022年5月26日も私立武蔵野中学校で「道徳」のゲストスピーカーとして2時間の授業を行う機会があった。7月10日に実施した内容については「道徳教育実践報告：中学校の道徳教育」(『新教育課程研究』第25号、武蔵野教育研究会、2021年11月)として発表した。本稿は5月26日の内容をまとめたものであるが、「総合的な学習の時間」を意識した内容でもある(佐々木 a 1-27)(佐々木 b 1-24)(佐々木 c 1-52)(佐々木 d 1-27)。

今回も中学生1～3年生(中学1年生28名、中学2年生23名、中学3年生23名、合計74名)を対象にしたものであるため、できるだけ新しい内容で身近な話題のものから道徳教育に相応しいものとした。前回のものを共通事項として一部を活用した。

1 第1時間目「社会の変化に対応してく ポップカルチャーで道徳が勉強できるか」(9:00～9:50)

音声及び動画を組み込んだパワーポイントを使用しながら、中学1年生から3年生(74名)を対象に合同で行った。

2～3年生は昨年も受講しているが、1年生は今回初めてということもあり、最初は簡単な講師の自己紹介を行ったあと、「道徳を説明するとどういうものですか?」と言う質問を中学1生の何人かに聞いてみた。

2021年7月10日(土)でのおもな解答

- ・人に関係しているもの。
- ・人間関係に関係しているもの。

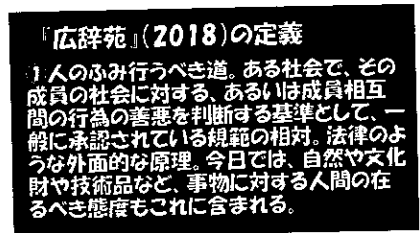
・人が暮らしていく社会で必要なもの。

2022年5月26日(木)でのおもな解答

- ・みんなが守るもの
- ・ルール、きまり

2021年は1年、2年、3年とひとりずつ質問したが、2022年は1年生3人に質問した。内容としては大きな違いはあまり感じられなかった。

以下は共通として同様に進めた。「道徳教育実践報告：中学校の道徳教育」(2021)に掲載した通りである。



一般的な定義として『広辞苑』のものを提示した。道徳はこれまで人を対象にしていたが、「今日では、自然や文化財や技術品など、事物に対する人間の在るべき態度もこれに含まれる」という点に注目した。広くは環境問題、ゴミ問題、動物虐待、モノを大切に作る心なども含めて現在では道徳の範囲で取り扱われるものであることを紹介した(佐々木d2)。

次にこれも前回と同様であるが、学校の建学の精神と文部科学省が道徳において求めることの共通性を紹介した。

「道徳」は特別なものではなく、学校法人武蔵野学院の建学の精神「他者理解」にもその内容が含まれている。他者理解はまず他者の存

在を認め、その次に理解するように努める。他者をすぐに理解することはできない。容認するとは排除しないことが重要である。文部科学省では道徳の説明として「自立した人間として他者と共によりよく生きる」（文部科学省中央教育審議会 別添 16-1）が取り上げられている（佐々木 d 3）。

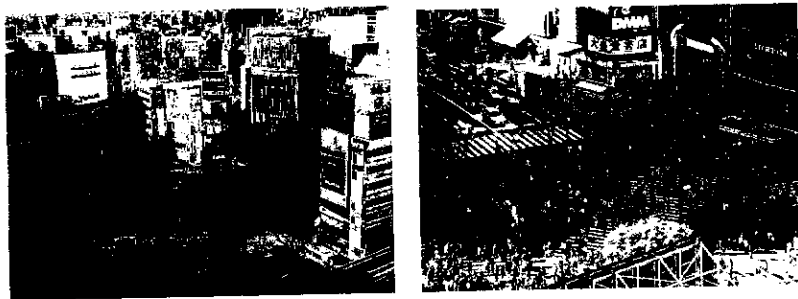
今回、第1時間目で注目したことは「社会の変化に対応していること」に着目した。

- ・国際化からグローバリゼーションへ
 - 異文化理解、教育やポップカルチャーの在り方
- ・新しいツールの誕生（科学の発達）
 - デジカメ、インターネット
- ・新型コロナウイルス感染症の発生と蔓延

今回は上記2つを取り上げた。「国際化からグローバリゼーションへ」については「異文化理解」「教育」「ポップカルチャー」について注目した。ここで生徒に質問したことは「常識や規範は変化するものなのか」ということだ。

日本では非常識と思われたいたことも、海外でそれが実践されている、あるいは法令が変わった場合には当然、道徳や常識と言われるものも変化することになる。まず最初に取り上げたのは歩行者用の信号機が赤であるが、車道に車が全く走っていない場合、海外と日本の場合には違いがあるのだろうか。海外では合理主義という考え方が根付いているため、車の往来がなければ、信号にかかわらず歩行者は横断することがある。一方、日本では車の往来に関係なく、信号に従って行動するのが規範的行動とみなされている。一般的に日本人はルールを守ろうとする傾向があるからだ。

道路についての事例として斜め横断、歩行者天国を取り上げた。以前は道路を斜めに横断するというのではなく、斜め横断用の横断歩道もなかった。斜め横断の究極の姿が現在の渋谷のスクランブル交差点だ。



(2019年11月17日筆者撮影)

実際の授業では渋谷スクランブル交差点の動画を十数秒見せた。日本でのスクランブル交差点は1971年から全国的に徐々に広まったものだ。アメリカではすでに1960年代に登場していた。そもそも日本では斜め横断という発想はなく、こうした自由な発想自体がアメリカ的という考え方があった。最終的には渋谷のスクランブル交差点はサッカーワールドカップやカウントダウン、さらには渋谷のハロウィーンのでの象徴ともなった。こうした背景を受け、2016年のリオデジャネイロでのオリンピックでのフラッグオーバーセレモニーの映像ではその冒頭が渋谷のスクランブル交差点であったことも象徴的だった。

歩行者天国という発想も欧米的だ。世界で初めて商業街路での車両の通行を禁止したのは1930年にドイツのエッセンにあるリンベッカー通りと言われている。日本では1887年に東京・神楽坂の縁日で初めて実施されたと言われている。自動車の登場を考えると、大規模のものは1969年に北海道旭川市、1970年には東京・銀座でも実施されるようになったのだ。

自動車社会の欧米から斜め横断や歩行者天国はから導入され、いったん根付くようになると、これが当然となった。これまで非常識と思われて来たことも、法令上認められれば、それが今度は常識となったのだ。

海外から見て不思議に思われるものは、あれでけ一斉に横断する渋谷のスクランブル交差点でもぶつかることもなく、日本人はふつうに横断していることだ。同じようにラッシュアワー時におけるホームでの人の流れも同様だ。これには整列乗車が大きく関係している。人から指示されなくても、ドアの前に整列し、電車から下車する人を待ってから乗車する一連の流れは毎日の光景だ。電車のドアが開き、我先に乗車しようとする者はいない。この究極版がコミックマーケットの整列だろう。

また、東京ディズニーランド(以降、「TDL」と略す)と上海ディズニーランド(以降、「SDL」と略す)でのパレードでのゲスト(お客)の様子などもインターネット上に公開されている動画を観れば、これもまた一目瞭然のことがある。それはお客がどのようにしてパレードを見ているかということだ。TDLが前列の客が座ってみているのに対して、SDLでは全員がほぼ立ってみている状態だ。これは主催者側の指導も当然あるが、日本では自然にお客自身が座ってスタンバイし、パレードが始まっても前列あるいは数列は座ったままである。こうすることで後ろの人が見やすくなるからだ。ここでの日本人の人に迷惑をかけない、他人のことを考えて行動する背景が見て取れる。

次にピカソと葛飾北斎の絵(浮世絵)を見せた。これを見てどう説明するかという問いだ。日本ではたいてい、誰の作品で、何という作品で、いつ頃のものかということがよく問題となる。もちろん基礎情報としてこれは必要かもしれない。また、調べる際にこれらがわかって入れば、リサーチが速やかに行える。海外ではむしろ「あなたはどう感じるのか」といったような感受性を問われることがある。作品の背景等ではなく、芸術作品の場合には個人として何を感じるのか、どう思うかというところが問題となる。これは教育の在り方にも大きく影響することについて紹

介した。

次に「多様性」(diversity)については話題を変えた。現在、教育界だけではなく、あらゆる方面で SDGs (Sustainable Development Goals「持続可能な開発目標」)が取り上げられている。「総合的な学習の時間」における SDGs の取り上げ方等についてはすでに論じているので、ここでは省略する(佐々木 d 17-23)。

「多様性」については SDGs の目標には含まれていないが、世界中で大きく注目されている。SDGs の中に「多様性」というゴールはないが、「2030 アジェンダ」には、生物多様性、遺伝的多様性のほか、自然や文化の多様性、民間セクターの多様性、産業の多様化といった表現がある。また、TOKYO2020 でも掲げられた「多様性」は頭でわかっている、感覚的に、感性として理解するのは案外難しい。「他者理解」の原点となる。「多様性」は他を認めることはもちろんだが、個性を認める、個性を重視することが原点となる。異なる者をどう認めていくかが大きな課題だ。事例として小学生のランドセルの色を取り上げた。昔は女子は赤、男子は黒が定番だった。この2色以外のランドセル自体がなかったのではないだろうか。しかしここ数年、かなり前からランドセルはカラフルになった。また、小学校の教科書が A4 版の大きさとなったことから、これに対応したものへと変化もしている。今の時代、色で男女を区別することはできない。女子が赤、男子が黒の時代は終わったのだ。

「多様性」とは個性を尊重することになる。まず SMAP の「世界に一つだけの花」を紹介した。ここでは個性を only one として表現した。個性を前面に出すものとしてアニメやドラマから事例を紹介した。戦隊ものや冒険ものには多様性を求めるものが多くある。

『僕のヒーロー・アカデミア』

「超常能力“個性”を持つ人間が当たり前の世界。憧れの No.1 ヒーロー・オールマイトと出会った“無個性”の少年・緑谷出久、通称

「デク」は、その内に秘めるヒーローの資質を見出され、オールマイトから“個性”ワン・フォー・オールを受け継いだ。デクはヒーロー輩出の名門・雄英高校に入学し、“個性”で社会や人々を救ける“ヒーロー”になることを目指し、ヒーロー科1年A組のクラスメイトたちと共に成長していく。

デクは爆豪、轟と共に No.1 ヒーローであるエンデヴァーの事務所へインターン活動に臨む。最高峰の現場に身を投じたデクはワン・フォー・オールに眠る新たな“個性”黒鞭を操るなど、ヒーローとして確かな成長を見せる。一方、敵連合の死柄木弔は、リ・デストロ率いる異能解放軍と激突。リ・デストロとの戦いで窮地に陥る中、死柄木は忘れていた凄惨な幼少期の記憶を取り戻し、覚醒する。異能解放軍を掌握し、その勢力を拡大しつつ、全てを壊すため自らに新たな力を求めるのだった。デクと死柄木、ヒーロー敵。その全面戦争の時が迫るー！」⁽¹⁾

『アベンジャーズ』

「アイアンマンをはじめとする人気ヒーローたちが集合するアクション大作。「MCU」初となるクロスオーバー作品は、世界中のファンに大きな衝撃を与えた。監督は『エイリアン4』（1997）の脚本を務めたジョス・ウェドンが担当した。

本記事は同シリーズ1作目のあらすじ・キャスト、見どころをご紹介します。

『アベンジャーズ』（2012）あらすじ

国際平和維持組織 S.H.I.E.L.D.のもとで研究されていた“四次元キューブ”を狙い、宇宙からソーの義弟にして邪神のロキ（トム・ヒドルストン）が襲来。S.H.I.E.L.D.の長官ニック・フューリー（サミュエル・L・ジャクソン）は非常事態宣言を発令し、超人たちを集めたチームを作ることを決意する。S.H.I.E.L.D.によってアイアンマ

ン、キャプテン・アメリカ、ソー、ハルク、ブラック・ウィドウ、ホークアイは人類史上最大の敵の襲来に備えたチーム“アベンジャーズ”として召集されるが、それぞれ過去の戦いで負った心の傷に囚われ、チームとして戦うことを拒んでしまう……。」⁽²⁾

『ワンピース』

「東の海（イーストブルー）の端に位置する、フーシャ村。村の少年、モンキー・D・ルフィは、悪魔の実を食べたことによって体がゴムのように伸びる、ゴム人間になってしまった！

偉大なる海賊シャンクスと出会い、ルフィは自らも海賊になること夢見る。そんなルフィにシャンクスは海での再会を約束し、自分の麦わら帽子を預けて出航していった。

それから 10 年後。成長したルフィは、揺るがぬ夢を抱えたまま、1 人大海原へ漕ぎ出す。「海賊王に、おれはなる!!!」そう高らかに宣言して。⁽³⁾

『僕のヒーロー・アカデミア』『アベンジャーズ』『ワンピース』ではそれぞれ全く違う能力を持った者たちが集まり、悪や敵と戦う。ここには仲間や味方が多様性を持ち、個性に満ち溢れている。

次の 2 本の動画を紹介した。ドラマやアニメーション映画では身体障がい者を扱うものも登場し健常者には新しい問題提示となっている。

- ・井上尚子監督『聲の形』（京都アニメーション、2016）

※全日本ろうあ連盟監修のもと道徳教材化され 2015 年に 30 分の実写 DVD 化された。2016 年には劇場版アニメーションが制作された。

- ・ドラマ（原作はマンガ）『恋です！～ヤンキー君と白杖ガール』（2021 放映）

2 第1時間目の授業内容の狙い

中学校用の道徳の教科書をヒントに動画などを含めアニメやドラマなどで使用されたものをはじめ、実はディズニーランドのような一コマからでも道徳的な内容を読み取れることを狙いとした。

道徳の教科書の目次の「4 社会に生きる一員として」に着目し、特に(1)及び(2)及び「○「違い」って何だろう」に着目した。特に身体障がい者を扱う内容については、全日本ろうあ連盟、横浜市立盲特別支援学校監修のもので、かつ一般に公開されているものを使用した。また、できるだけ新しいものを使用し、生徒がすでに見ている可能性のあるものを敢て活用することで、問題提起をしやすいものとした。また、後日、インターネット上のものや専門店でのレンタルなどで視聴がしやすいものである。

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』(平成29年告示)

(2) 物事を広い視野から多面的・多角的に考える

グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発達や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となる。こうした課題に対応していくためには、人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話し協働しながら、物事を広い視野から多面的・多角的に考察することが求められる。(16頁)

1 上記を踏まえつつ、学校法人の建学の精神と文科省の道徳の考え方の根底にある「他者との共生」「社会の変化に対応」と道徳等を身近なところから考察を深めることができる。

2 生徒の関心を高めるため、マンガ・アニメ・ドラマを取り上げながら身近なものからテーマを設定することで、「道徳」を教わるのではなく、道徳を考える、あるいは多様性を考える一助として社会の変化や多様な価値観の存在を理解することができる。

3 生徒同士の発言から、発展的な学びへ展開すること期待しながら、生徒が講師とのコミュニケーションにより授業を展開させ、双方向の授業をすることができる。

今回は特に「多様性」に注目したが、後半では障がい者にも注目した。障がい者を理解することは活字だけでは到底できない。「道徳」の授業という枠組みの中でどう理解に結びつけていくかは難しい。ここでは断片的ではあるが、生徒が日常的に触れているアニメやTVドラマを紹介した。

3 第2時間目「社会の変化に対応 新しいツールの誕生(科学の発達): デジカメ、スマホ、インターネット(情報モラル)」(10:00~10:50)
新しいツールの誕生としてデジタル機器やSNSの変遷について簡単な表を提示した。

- 1983年 任天堂のファミコン登場
- 1986年 『ドラゴンクエスト』シリーズ
- 1995年 カシオのデジタルカメラ発売
- 1995年 PHS
- 1999年 i-mode
- 2000年 内臓型カメラ付き携帯電話
- 2005年 フィルム・カメラとデジタル・カメラの売り上げが逆転
- 2006年 TWITTER

- 2007年 iPhone
- 2007年 FACEBOOK 本格参入
- 2008年 出会い系サイト規制法
- 2008年 青少年インターネット環境整備法
- 2011年 LINE、サービス開始
- 2012年 改正著作権法施行（違法ダウンロードに罰則規定）
- 2013年 改正公職選挙法（インターネット選挙運動の解禁）
- 2018年 TIK-TOK

デジタル機器、インターネット普及状況を確認後、インターネットの利便性について次のような質問を生徒に投げかけてみた。

- ・インターネットの利用、スマホ（携帯電話）の長所は？
- ・インターネットの利用、スマホ（携帯電話）の短所は？

インターネット上のコミュニケーションが驚くほど活躍したのは、実は災害の際、電話線が寸断されて、不通となった中、他人とコミュニケーションが取れたのがインターネットであったことだ。パソコンだけでなく、携帯電話からも通信をつなぐことができたからだ。有線の電話より便利だったことが証明された。

- ・1995年 阪神・淡路大震災
- ・2011年 東日本大震災

インターネットの目覚ましい発展は日常生活の中では携帯電話、スマートフォンに反映されている。最も暗い影は底辺に反映されることになる。特に現在最も問題になっているのがデジタル社会での表現における問題だ。

小学生や中学生はインターネットのやりとりで人間関係がうまくいかない、有害サイトや出会い系サイトなどの利用により犯罪等に巻き込まれることがある。こうしたことから、2008年に青少年インターネット環境整備法、出会い系サイト規制法が施行された。

中学生が SNS を利用する際、特に動画を投稿する場合に注意すべき点を取り上げた啓発動画 3 本を紹介した。

- ・第 1 話 「SNS 子ども間でのトラブル」
新潟ろうきん公式チャンネル
<https://www.youtube.com/watch?v=Fa414xKYDX8>
- ・初級編「動画投稿をきっかけとした個人情報流失（小・中学生）」
愛媛県警察公式チャンネル
<https://www.police.pref.ehime.jp/syounen/jouhou.html>
- ・教材⑥ 写真や動画流出する怖さを知ろう（導入編）
文部科学省/mextchannel
https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAOd2f4u_Mx-BCn13GywDI

トラブルの内容はおもに動画投稿の際における背景の映り込みである。背景に映り込んだものにより撮影自身の個人情報が流出し、あるいはプライバシーを侵害する場合もある。

何気なく撮影した背後に映ったものや不注意から、さらには一時的な感情の高ぶりや、とんでもない行動を起こし、動画をそのままインターネット上に投稿し取り返しのつかない状態となることがある。このような場合には被害者も加害者もつらい立場になってしまう。このような場合には友達に相談し解決しようとするのではなく、身近な大人に相談すべきである。単なるいたずらの域を越え、すでに犯罪に巻き込まれている場合もあるからだ。

自身がインターネットに投稿するだけでなく、インターネット上の情報は信用できるのかという問題も大きい。では、どのように考えたらよいのか。このあたりは前回の特別講義と同様の内容を活用した（佐々木14-15）。

書き込み者が信頼できるかどうか、氏名、所属などを明らかにしているかどうか。（匿名ではなく、文責を負うことを承知しているかどうか）。個人ではなく特定の協会、団体、会社の場合にはそれが社会的な信頼度や知名度から判断することになる。

匿名性の功罪

功 匿名だから本当のことが言える。地位や立場、年齢に関係なく、意見を主張できる。

罪 匿名だから嘘のことが言える。てきとうなことを言える。一番は責任を取る必要がない。（最近ではサイバー犯罪として捜査が進み、逮捕されることがある）（爆弾を仕掛けたとか、...）

自己満足

罪 知恵袋などはよかれと思って情報を提供している場合もあるが、根拠がない情報を流布していることがある。最終的にはサイトを見た人が判断するしかない。情報過多をどう処理するか。頼りすぎもよくない。よく理解して使うことが肝心。

インターネットの投稿は年齢に関係なく、カメラ機能によりいつでも、どこでも撮影ができ、さらにこれをインターネット上へアップすれば、場合により肖像権・著作権、プライバシー等の問題へも発展しかねない。場所等に拘わらず撮影することで、店内での撮影や購入前の商品を撮影するデジタル万引き（digital shoplifting）といった新しい問題も生じている。デジタル万引きはまだ法制化されていないが、これも道徳的に考えると問題があるようにも思える。

さらにインターネット上の不適切なコメントや写真は1度インターネット上に掲載されれば、単に自分の登録アカウントを削除すれば消えるというものではない。このあたりのことが実は理解されているようで、理解されていないことに一番の問題がある。こうした現象はデジタル(ネ

ット) タトゥーとも呼ばれている。

「ネットタトゥー」とは、「ネット上の入れ墨」という意味で、1度ネットに掲載するとそれを消し去ることはほとんどできないということだ。

ネット上に掲載されたものは誰かがそれをコピーして別の人に送り、これが次から次へと行われるため、最初のを消しても、コピーされたものが増殖していくため、すべてを消さないとネット上に永久に残ってしまう。文字情報、写真もそうなる。

怖いのは写真だ。変な写真ほど面白がってみんなが次から次へとコピーして、めぐりめぐりって就職の時期に変な写真を見つけられると大きな痛手となることがある。自分で掲載しなくても、友達が掲載したものに自分が写っていれば、、、あー怖い！自分ひとりで注意していても防げないのが、デジタルタトゥーだ。

インターネット・コミュニケーションによる不安感も見逃せないところだ。携帯電話やスマートフォンなどで誰からかメールが来ていないか、連絡が来ていないかとチェックを怠ると落ち着かず不安になることを意味する言葉「*fear of missing out*」(「取り残されると不安」との意味)がある。その略語が FOMO である。ソーシャル依存症とも言われる。16~35 歳という広い範囲の年代に起こり、極端な場合、数 10 秒~数分ごとに携帯電話などをチェックせずついにいられなくなり、ストレス症が起きたり日常生活に支障を来すことがあり、依存症となる。携帯電話やスマートフォンに触っていないと落ち着かない状態がゲーム機でも同じ状態が起こる。WHO からゲーム障害 (*gaming disorder*) と呼ばれている。

人は何故、インターネット上でのコミュニケーションを気にするのか？

- 承認欲求
- FOMO (Fear of Missing Out)

このふたつが大きな鍵を握っているのではないだろうか。インターネット上では、自分が誰なのかを隠して参加できることから、前述の通り匿名性による功罪がある。「承認欲求」は山竹伸二『「認められたい」の正体』(2011)では次のように述べている。


現代は承認への不安に満ちた時代である自分の考えに自信がなく、絶えず誰かに認められていなければ不安で仕方がない。ほんの少し批判されただけでも、自分の全存在が否定されたかのように絶望してしまう、そんな人間があふれている(山竹 8)。

インターネット上の世界は仮想現実として、すでにコロナ禍においてますます利用が進んでいるが、こうした考え方はすでにマンガやアニメで行われていた。特に細田守監督『サマーウォーズ』(2009)、『竜とそばかすの姫』(2021)における、オズやUの世界はその典型である。やっかいなのは匿名の世界、アバターの世界、実態のない友達のいる空間であることだ。

次のようなスライドを提示した。

実態のない友達

何をもって「友達」というかもありますが、自分にとって都合がいい、自分を認めてくれれば、顔も知らなくても、ネット上の人でも「友達」と思う人もいます。見えない相手をどこまで信用するか、それはあなたが自分で判断するしかありません。



インターネットは直接世界に発信できる

- ・英語さえできれば、インターネットを通して自分の考えを世界中に発表することができます。誰かの力を借りずに可能なのです。
- ・インターネットは文字だけでなく、画像、映像、システムを使えば、テレビ電話にもなります。世界中のひとに電話もすることができます。無料のシステムを使えば、顔を見ながら電話もできるのです。

インターネットは個人でも世界に発信のできるツールだ。自分をアピールするための最も身近なものとなった。その特徴と注意すべきこととして以下4点を挙げた。

- ・情報のスピードは TV よりも速く、リアルタイムで情報が入手できること。
- ・プロダクションや会社に関係なく個人の力で発信できること。
- ・情報の内容により自分で責任を負うことにもなること。また、誰も守ってくれないこと。
- ・個人情報、動画撮影では思いもよらぬところからトラブルに巻き込まれることがあること。

この4点を2時間目のまとめとした。

4 第2時間目の授業内容の狙い

第2時間目の授業では「情報モラル」をメインとした。昨年も「情報モラル」を取り上げたため、今回ではその取り上げる内容についても変化をつけた。

○道徳の教科書の「○情報社会の光と影」の部分について、昨年はバイトテロのような不適切な動画の投稿について取り上げたが、今回はより中学生寄りにし、動画の投稿時において背景の映り込みによりトラブルについて取り上げた。

○使用した動画については専門機関が啓発用に作成し、インターネット上に公開されているものを使用した。

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』（平成29年告示）

(1) 情報モラルに関する指導

社会の情報化が進展する中で、生徒は、学年が上がるにつれて、次第

に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており、学校や生徒の実態に応じた対応が学校教育の中で求められる。これらは、学校の教育活動全体で取り組むべきものであるが、道徳科においても同様に、情報モラルに関する指導を充実する必要がある。

ア 情報モラルと道徳科の内容

情報モラルは情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度と捉えることができる。内容としては、情報社会の倫理、法の理解と遵守、安全への知恵、情報セキュリティ、公共的なネットワークがあるが、道徳科においては、第2に示す内容との関連を踏まえて、特に、情報社会の倫理、法の理解と遵守といった内容を中心に扱うことが考えられる。指導に際して具体的にどのような問題を扱うかについては各学校において検討していく必要があるが、例えば、思いやり、感謝や礼儀に関わる指導の際に、インターネット上の書き込みのすれ違いなどについて触れたり、遵法精神、公德心に関わる指導の際に、インターネット上のルールや著作権など法やきまりに触れたりすることが考えられる。また、情報機器を使用する際には、使い方によっては相手を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすこともあるため、指導上の配慮を行う必要がある。(99頁)

上記の内容を can do リスト化すれば、次のようになる。

- 1 上記を踏まえつつ、情報モラル、特に情報社会の倫理について理解を深めることができる。
- 2 生徒の関心を高めるため、ニュースなどで取り上げられているもの、将来直面するようなリスク回避を含め、公德心について理解することができる。

『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』（平成 29 年告示）

(1) 自己を見つめる

道徳性の発達の出発点は、自分自身である。中学生の頃から、様々な葛藤や経験の中で、自分を見つめ、自分の生き方を模索するようになる。感情や衝動の赴くままに行動し、自分の弱さに自己嫌悪を感じることもあるであろうし、逆に、理想や本来の自分の姿を追い求め、大きく前進しようとすることもある。中学生は、そのような大きく、激しい心の揺れを経験しながら、自己を確立していく大切な時期にある。(15～16頁)

上記の内容を can do リスト化すれば、次のようになるろう。

- 3 インターネット上のトラブルは加害者と同時に被害者もまた自己嫌悪に陥ることがあり、こうしたことを防止することができる。
- 4 自分自身をアピールするために使用した SNS が思わぬトラブルを引き起こすことがあるが、正しく使用することで、その危険性も理解することができる。

啓発用の動画は実際におきた事件や相談案件から作成されているものだけに実際的であることと、中学生向けに作成されていることもあり、内容も分かりやすく作成されている。本来であれば、これをもとにディスカッションなどを行うことが理想であるが、特別授業と言う内容から今回はそれを実施していない。今後、中学校での現場の先生方や生徒間での活動を期待したい。

5 2回目の「道徳」特別授業の実施にあたり注意した点

2021年7月10日(土)に続き、2022年5月26日(木)も私立武蔵野中学校で中学1年生から3年生まで合同の「道徳」の特別授業を行っ

たがその主な内容は次のようになる。

2021年7月10日（土）1時間目

- ・「他者理解 世界はみな同じ、それとも世界はみなバラバラ？」
- ・道徳やルール、規則は世界中み同じなのかどうか。文化が異なれば道徳観やルール、規則も異なる。

2021年7月10日（土）2時間目

- ・「きれいな花、美しい花にはとげがある 便利なツールは危険なツールでもある」
- ・バイトテロなど不適切な動画の投稿。面白半分動画を意図的に投稿することの非常識さを取り上げた。単なるいたずらで済まず、犯罪となる可能性があることなど、情報モラルを取り上げた。

この内容を現在の中学2年生と3年生は授業で取り上げたため、メインの部分で同じものを使用したり、あるいはまったく同じテーマで授業を進めることはできない。

一方で、新1年生にも理解してほしい内容もあるため、建学の精神「他者理解」が「多様性」を理解する上でキーワードになることなどは共通した内容として取り上げた。今回は「多様性」ということから、目の不自由な生徒、聾啞の生徒を扱ったドラマやアニメを紹介し、より具体的な内容とした。前回は『鬼滅の刃 無限列車編』などを取り上げ、欧米のアニメに対する考え、子どもをどう守っていくかを国際的な視点でとらえたが、今回は国際的な視点を最小限にとどめ、具体的な事例を取り上げることに主眼を置いた。

また、情報モラルについては、今回はバイトテロではなく、LINEなどのやりとりのトラブルや投稿動画の背景の映り込みなどを取り上げ、より具体的な内容とし、情報モラル啓発用に作成された動画を活用することによって中学校の先生が利用できるようサイトなども示した。特に

警察関係が作成している啓発動画は8分程度で短くまとめ、スマホのトラブルの原因やその解説もわかりやすくなっていた。

筆者の観点のなかでポップカルチャーやアニメなどの要素を入れることだ、50分＋（休憩）＋50分の特別授業に飽きがないように、テレビのような感覚でアニメやドラマの一場面を使用しながらも、時に音楽や効果音なども含め、単調にならないように工夫した。

エピソード

中学校での「道徳」の特別授業も今回2回目である。1回目での課題を改善し、さらに2回目となることから、1回目との差別化も必要である。1回目と2回目の趣旨を確認しておきたい。

2021年7月10日（土）の「道徳」は以下のことを強く意識して行った。

- 1 学習指導要領に沿った内容にすること。前回の授業内容と重複しないようにすること、2時間あることから、内容を2種類にすることを心掛けた。
- 2 筆者が国際コミュニケーション学部所属の教員ということから、「国際」という視点を組み入れた道徳の授業を行いたい。
- 3 中学生にとってできるだけ身近なものを教材として道徳の授業を展開したい。マンガ、アニメ、ゲームなど教材として利用したい。
- 4 中学生はアルバイトはできないが、バイトテロのような社会的に大きな問題となっているものを取り上げたい。
- 5 パワーポイントを中心に進めるため、文字情報だけでなく、映像やBGMなども多様し、テレビ番組を観覧席で見ているような雰囲気を進めたい。途中で質問などを行い参加型、アクティブラーニング的な要素を取り入れたい（佐々木 d 24）。

2022年5月26日(木)の「道徳」は以下のことを強く意識して行った。

- 1 学習指導要領に沿った内容にすること。2021年の授業内容と重複しないようにすること、必要なことは共通として活用したが、はっきりとした狙いで2時間、2種類とすることを心掛けた。
- 2 筆者が国際コミュニケーション学部所属の教員ということから、「国際」という視点を組み入れたいところであるが、今回は、この国際の視点を弱め、異文化が日本に影響を与えた簡単な事例を紹介するにとどめた。
- 3 中学生にとってできるだけ身近なものを教材として道徳の授業を展開したい。最近放映されたTVドラマや注目を浴びたアニメーション映画を紹介した。
- 4 中学生に身近な話題として動画の投稿等、中学生用の情報モラルの啓発動画を取り上げたい。
- 5 パワーポイントを中心に進めるため、文字情報だけでなく、映像やBGMなども多様し、テレビ番組を観覧席で見ているような雰囲気を進めたい。
- 6 2021年7月10日の内容が異なることを明確すること。情報モラルは多義にわたるため、今回はバイトテロ、今回は中学生のスマホの使い方、動画の投稿の啓発とすることで、より身近なもとしたい。

今回の大きな特徴はより身近な内容としたことだ。多様性については、まず身近に体験したり、触れたりしなければ理解は進まない。点字ブロック、街中で見る車いす利用者、白杖、盲導犬、介助犬、手話、駅のホームのチャイムや点灯ライト、信号機のチャイム、エレベーター内での鏡はどうしてあるのかなど、改めて考えてみる必要がある。また、専門

機関が作成した啓発動画を活用したことによりリアリティを感じられるようにした。啓発動画は事実から作成されたものであるため、日常生活の中で情報モラルの負の部分が身近にあることが示唆されている。

教材は作成するだけでなく、実際の授業での生徒がどのように反応を示すのかは教材作成者にとっては検証となるよい機会でもある。特別授業の機会を与えて下さった私立武蔵野中学校に深く感謝したい。

注

- (1) 『僕のヒーロー・アカデミア』
(<https://heroaca.com/introduction/>)(2022年5月10日アクセス)
- (2) 「映画『アベンジャーズ』あらすじ&キャスト、見どころ、配信中のVODサービスをまとめて紹介！」
(<https://filmaga.filmmarks.com/articles/73154/>)(2022年5月10日アクセス)
- (3) 『ワンピース』
(<https://one-piece.com/log/about.html>)(2022年5月10日アクセス)

引証資料

- 佐々木隆 a(2020).「英語教育に見る道徳的観点」、『新教育課程研究』、第13号、武蔵野教育研究会。
- 佐々木隆 b(2020).「『総合的な学習の時間』に関する学生の意識」(『新教育課程研究』、第17号、武蔵野教育研究会。
- 佐々木隆 c(2020).「障害者スポーツの表現を巡って—adapted sports とは何か」、『新教育課程研究』、第19号、武蔵野教育研究会。
- 佐々木隆 d(2021).「道徳教育実践報告：中学校の道徳教育」(『新教育課程研究』第25号、武蔵野教育研究会。

文部科学省 (2017). 『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編 (平成 29 年告示)』、文部科学省。

文部科学省中央教育審議会(2016). 「道徳性を養う学習と、道徳教育で育成を目指す資質・能力の整理」(別添 16-1)

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/12/12/1380468_3_4_4.pdf)(2021 年 8 月 1 日アクセス)

【キーワード】 道徳、学習指導要領、他者理解、多様性、情報モラル

「道徳」に関するこれまでの業績

- 「デジタル社会とモラル」(『日欧比較文化研究』第18号、2014年10月)、44-56頁
- 「附録 インターネットと若者」(『大学教育の行方』(武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2016年8月)、138-162頁
- 「第12章 インターネットと若者」(『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係』武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2018年10月)、1377-1387頁
- 「第12章 インターネットと若者」(『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』(武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2019年5月)、2130-2191頁
- 「英語教育に見る道徳的観点」(『新教育課程研究』第13号、武蔵野教育研究会、2020年2月)、1-27頁
- 「第12章 インターネットと若者」(『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 追加増補版』(武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2020年4月)、3157-3219頁
- 「障害者スポーツの表現を巡って—adapted sports とは何か」(『新教育課程研究』第19号、武蔵野教育研究会、2020年8月)、1-52頁
- 「道徳教育実践報告：中学校の道徳教育」(『新教育課程研究』第25号、武蔵野教育研究会、2021年11月)、1-27頁